

北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成31年4月8日

(2) 調査対象期間 平成31年1月～3月期実績および平成31年4月～6月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	22社	73.3%
建 設 業	30社	20社	66.7%
卸 売 業	30社	26社	86.7%
小 売 業	35社	21社	60.0%
サービス業	25社	17社	68.0%
合 計	150社	106社	70.6%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成30年度第Ⅳ四半期<平成31年1月～3月>の北見市における業況は、前年同期比で「好転企業」21.7%、「悪化企業」40.6%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△18.9となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期△14.2→今期△18.9と4.7ポイントの悪化を示しています。また、前期<30年度第Ⅲ四半期>との比較では、前期△30.2→今回△18.9と11.3ポイントの好転となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△4.6、建設業D・I値△15.0、卸売業D・I値△14.8、小売業D・I値△15.0、サービス業D・I値△52.9となっており、前年同期調査と比較すると、卸売業で8.0ポイント、製造業で4.1ポイント好転となった一方、建設業で1.3ポイント、サービス業で19.6ポイント、小売業で19.8ポイントの悪化傾向を示しました。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」17.9%、「悪化企業」36.8%でD・I値△18.9と、前年同期見通し(△21.7)に比べ2.8ポイントの好転傾向を示しました。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」31.8%、「減少企業」31.8%、D・I値0と前年同期に比べ4.3ポイントの好転傾向を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」27.3%、「悪化企業」31.8%、D・I値△4.5と前年同期より0.1ポイントの悪化傾向となりました。

来期見通し

業況D・I値△13.7、生産高D・I値△9.1、資金繰りD・I値△4.5と前年同期に比べ、資金繰りで好転傾向を示しているものの、依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高 前年比で「増加企業」30.0%、「減少企業」40.0%、D・I値△10.0と、前年同期に比べ5.5ポイントの悪化傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」30.0% D・I値△5.0と前年同期に比べ17.8ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△10.0、完成工事高D・I値△20.0、資金繰りD・I値△10.0と前年同期に比べ、全てで好転傾向を示しました。

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」25.9%「減少企業」29.6%、D・I値△3.7と前年同期に比べ23.6ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」11.1%、「悪化企業」37.0%、D・I値△25.9と前年同期に比べ12.2ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△18.5、売上高D・I値△7.4、資金繰りD・I値△7.4と、業況と売上高で好転傾向を示したが、依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」15.0%「減少企業」45.0%、D・I値△30.0と前年同期と比べて25.2ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」20.0%「悪化企業」35.0%、D・I値△15.0と前年同期と比べて10.3ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△10.0、売上高D・I値△20.0、資金繰りD・I値△5.0と前年同期に比べ資金繰りで若干の好転傾向を示したが、依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」11.8%、「減少企業」52.9%、D・I値△41.1と前年同期と比べ18.9ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

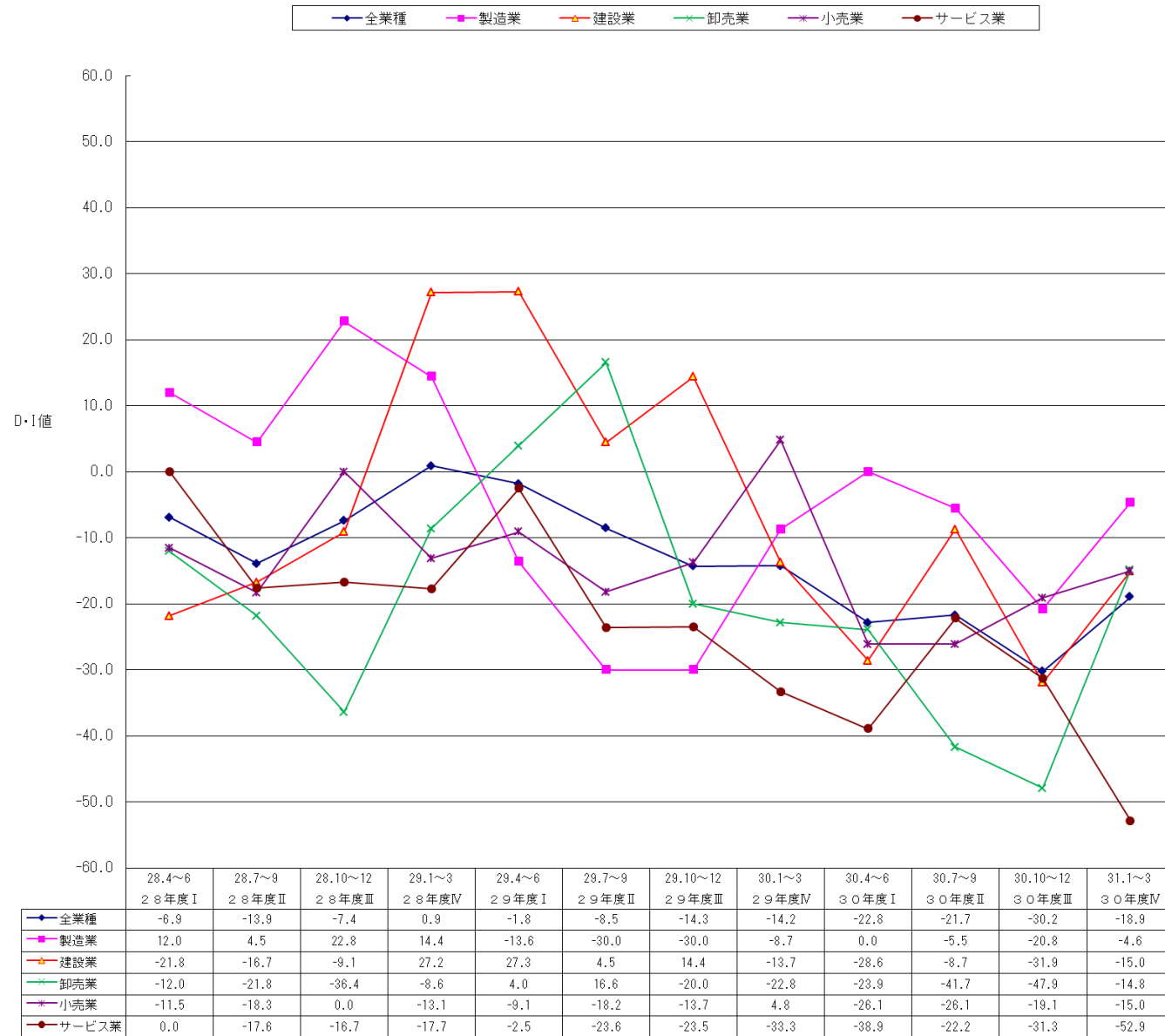
採算

前年比で「好転企業」11.8%、「悪化企業」64.7%、D・I値△52.9と前年同期から14.1ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△47.0、売上高D・I値△41.1、資金繰りD・I値△35.3と、前年同期に比べ全て悪化傾向を示し依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



各年度調査期

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	人 件 費 増	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
卸 売 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	同業者間の競合	人 件 費 増
小 売 業	同業者間の競合	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同業者間の競合	得 意 先 減 少
合 計	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種で見ると、「人材不足」がトップとなり、前回同様に「人材不足」が深刻な問題点として挙げられ、以下「諸経費増」「人件費増」の順となっている。

また、業種別で見ると卸売業では2位に「得意先減少」、小売業では1位に「同業者間の競合」が挙げられ、「人材不足」や「諸経費増」とともに深刻な問題になっている。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○設備の老朽化

(建設) ○職員教育

(卸売) ○海外で賃・物流コスト増による仕入価格の上昇

○市場縮小による事業間の競争激化

業 況

製造業 ⇒ 好転 (生麺類等製造、菓子、ビール製造)
悪化 (松製材、木製品、鋳物製品製造、石材加工、石灰製品)

建設業 ⇒ 好転 (家具、給排水・衛生・暖冷房)
悪化 (塗装、板金)

卸売業 ⇒ 好転 (青果物委託販売、業務用食品卸、建築資材、玩具、石油製品)
悪化 (鉄鋼、製菓原材料機器、事務服等販売、建築資材、自動車部品)

小売業 ⇒ 好転（眼鏡販売、家電）
悪化（酒、自動車、時計・貴金属、灯油、米穀類）

サービス業 ⇒ 好転（IT）
悪化（ホテル、ビルメンテナンス、飲食、建物清掃、理容）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）